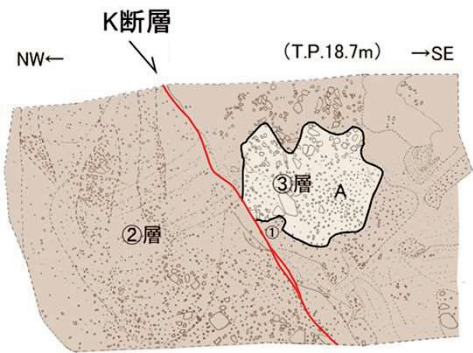
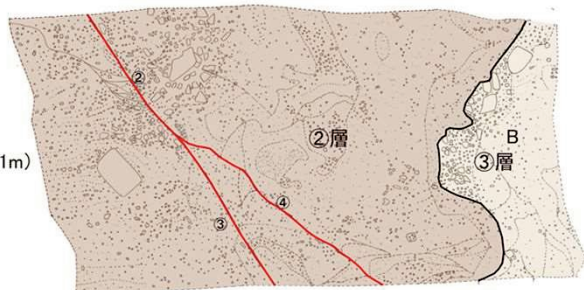


2.2.1.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット（原電道路ピット底盤～ふげん道路ピット東法面 スケッチ）

・原電道路ピットの底盤部で、K断層は②層及び③層を変位させ、N-S方向とNNE-SSW方向の2条の断層に分岐しながら、原電道路ピット東向き法面に連続している。



原電道路ピット
底盤東側部

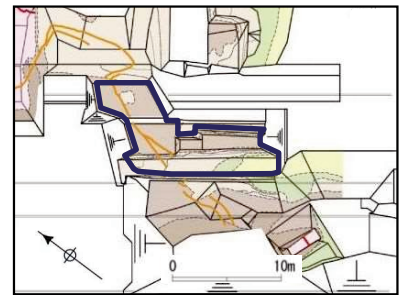
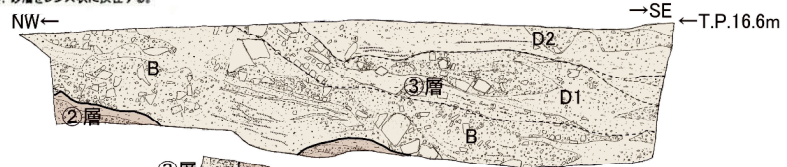


原電道路ピット
底盤西側部 (T.P.18.1m)

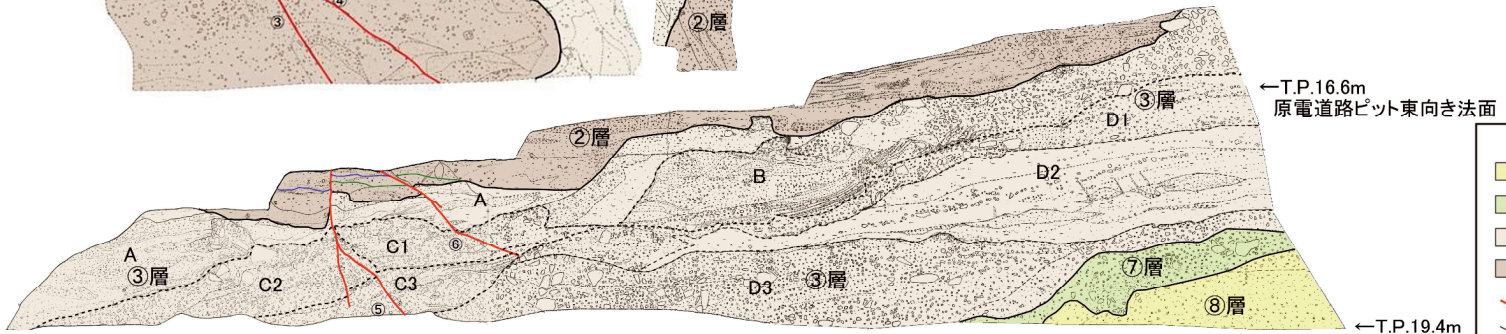
原電道路ピット
底盤東側部・底盤西側部
現場確認：2014年1月

- ⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。礫率5～10%で、礫は径2～4cm程度の歪角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状～層状に挟む。
- ⑦層：礫混じり砂質シルト～砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)～橙色(7.5YR7/6)。礫率7～40%程度で径3～40cm程度の歪角～歪円礫からなる。基質は、シルト混じり細～中粒砂からなる。下部ほど礫の含有量が多い。
- ③層 (C.D)：砂礫及びシルト混じり細砂を主体とする。橙色～明褐色(7.5YR6/6～7.5YR5/6)。礫率15～40%で径1～10cm程度(最大径40cm)の角～歪円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- (A,B)：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1～7cm程度(最大径25cm)の歪角～歪円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3～5%で径5cm以下の角～歪角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂～砂混じりシルトからなり、砂礫をレンズ状に挟む。

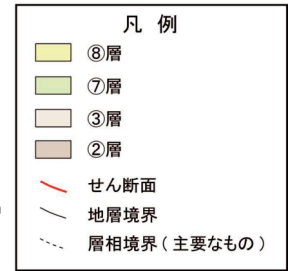
- ①:f.N29° E76° W
断層ガウジ(黄褐色シルト混じり砂状幅1～8mm)
- ②:f.N17° E86° W
- ③:f.N25° E86° W
- ④:f.N11° E66° W
- ⑤:f.N9° E74° W
- ⑥:f.N5° E64° W
- ⑦:f.N25° E70° E
- f: せん断面



展開図範囲

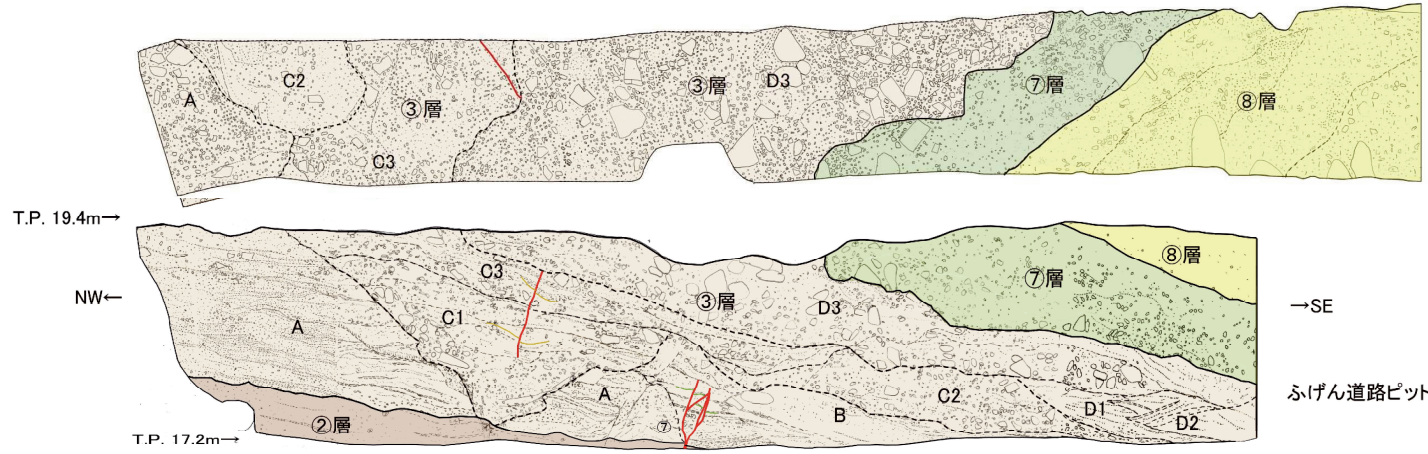


←T.P.16.6m
原電道路ピット東向き法面



原電道路ピット島状頂盤部 (T.P.19.4m)

現場確認：2013年4月



T.P. 19.4m→

NW←

T.P. 17.2m→

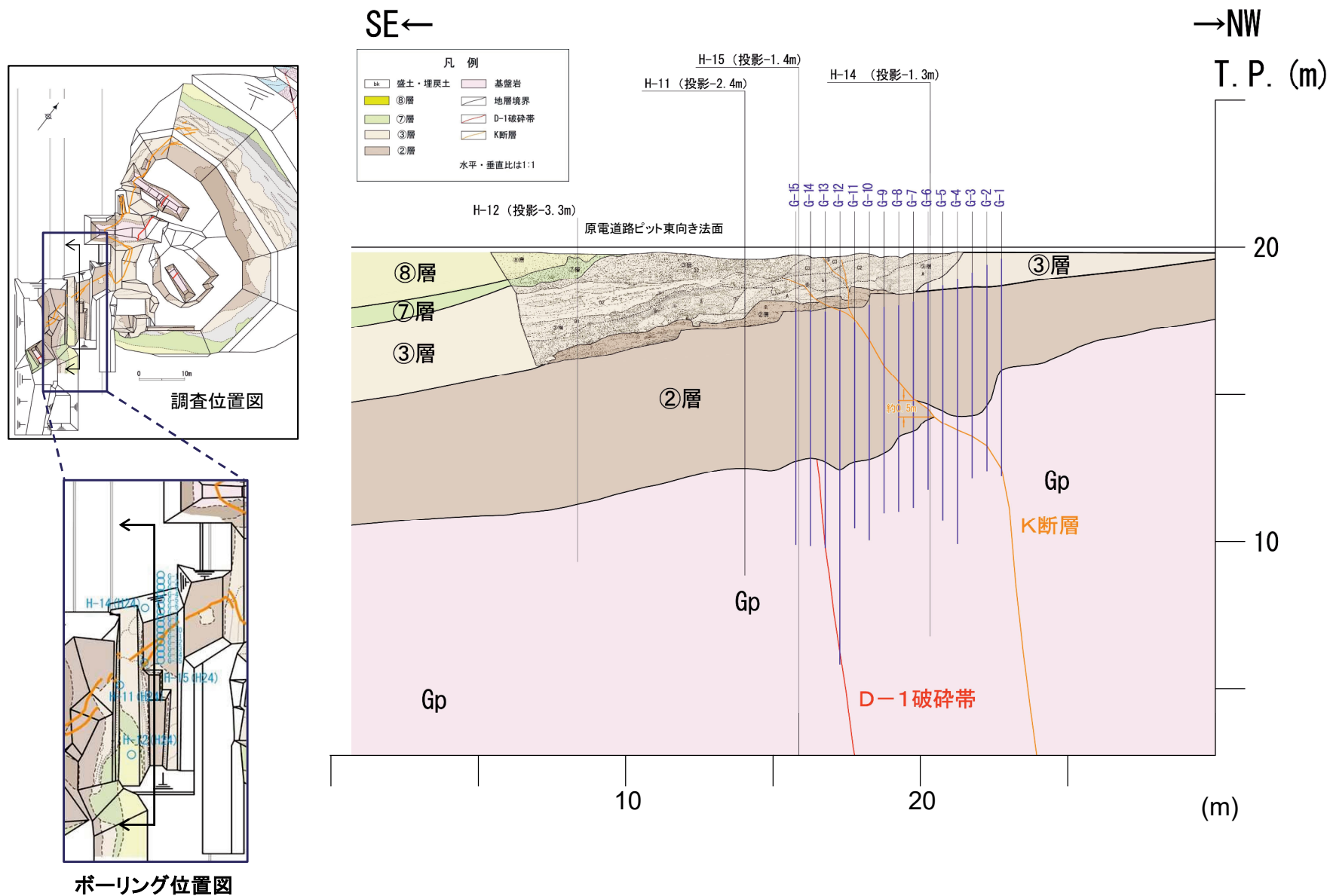
→SE

ふげん道路ピット東法面 (上段)



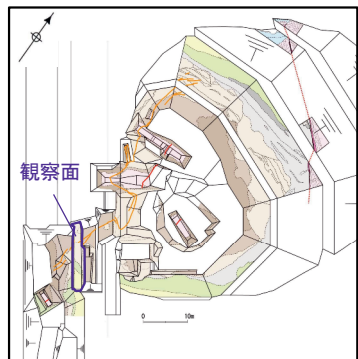
2.2.1.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット（原電道路ピット沿いの断面図）

・原電道路ピット東向き法面付近で実施した稠密ボーリング調査（ボーリング間隔は約50cm）の結果によれば、K断層による**基盤岩上面の比高は約0.5m**であった。



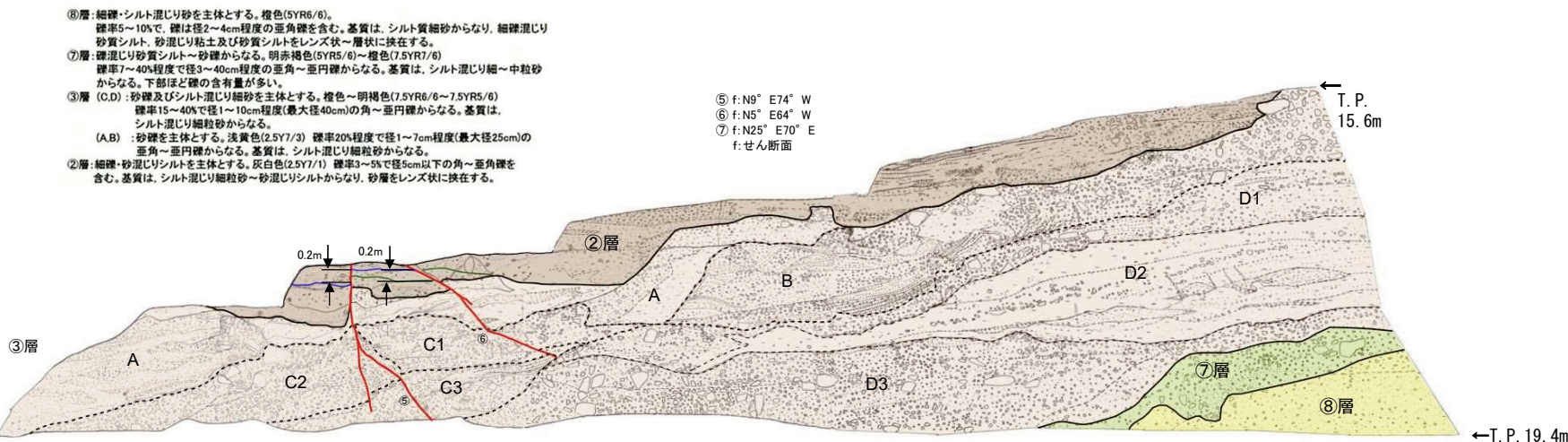
2.2.1.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット（原電道路ピット東向き法面～ふげん道路ピット東法面 スケッチ）

- 原電道路ピット東向き法面で認められるK断層は、②層及び③層中のC層までの地層に変位を与えているが、その直上に分布する③層中のD3層は変位・変形を受けておらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。同法面では、K断層は数条に分岐しており、②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.4mである。
- 原電道路ピット東向き法面で実施した③層のOSL年代測定は、K断層と傾斜不整合関係で接しているD3層について実施しており、③層の堆積年代は $133 \pm 9ka$ より古いことを確認した。なお、D3層に対比される地層は、D-1トレンチ入口南側法面において、美浜テフラを含む⑤層に不整合関係で覆われていることを確認している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層は $133 \pm 9ka$ 以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。



調査位置図

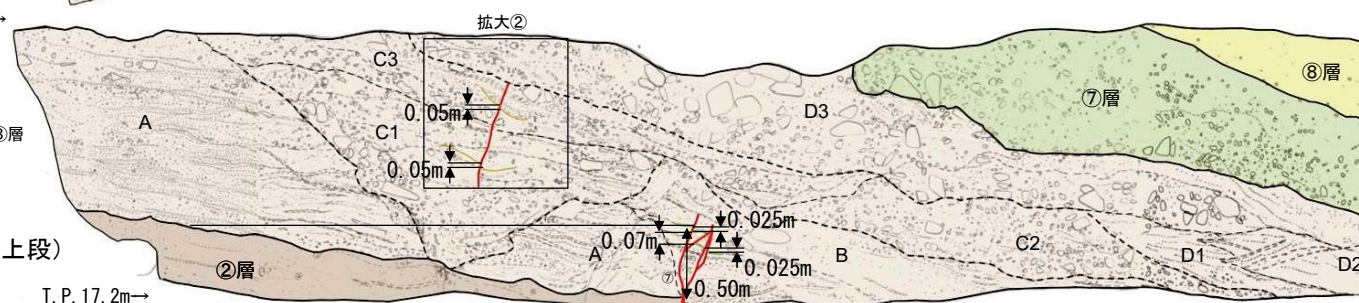
原電道路ピット東向き法面



原電道路ピット島状頂盤部 (T.P.19.4m)

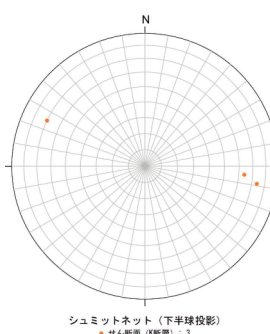
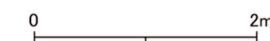


T.P. 19.4m→



ふげん道路ピット東法面(上段)

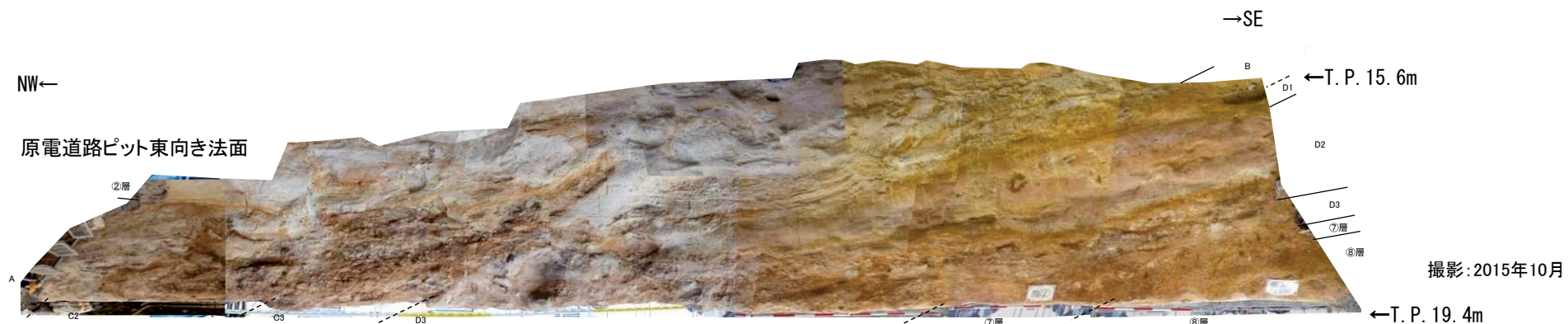
T.P. 17.2m→



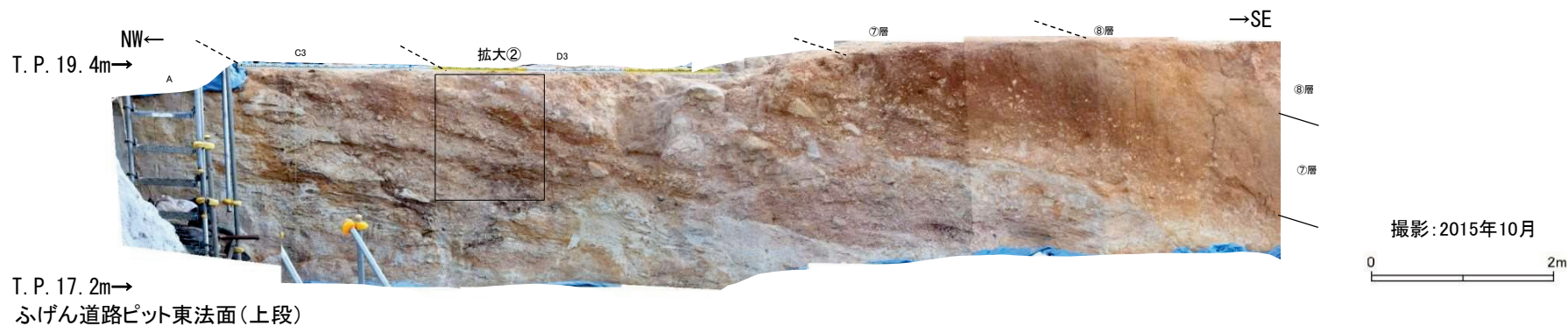
シュミットネット(下半球投影)

現場確認: 2013年4月

2.2.1.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット（原電道路ピット東向き法面～ふげん道路ピット東法面 写真）



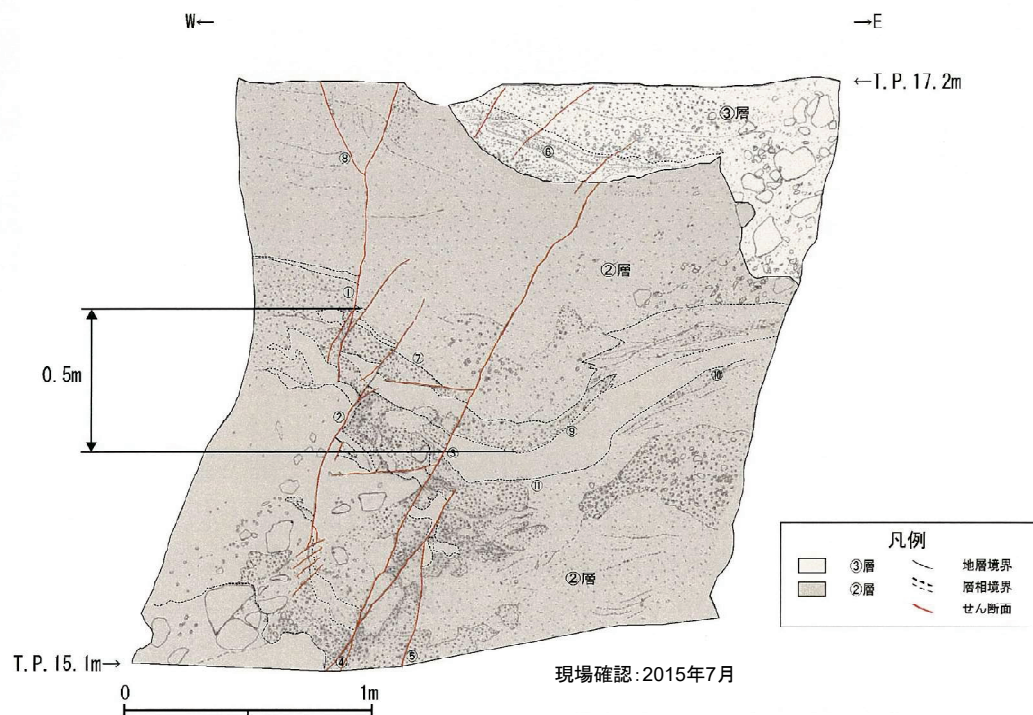
原電道路ピット島状頂盤部(T.P.19.4m)



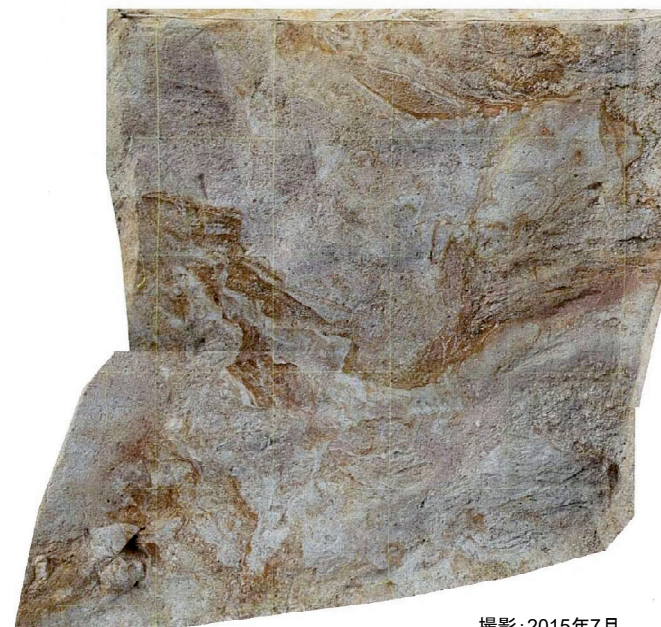
ふげん道路ピット東法面(上段)

2.2.1.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット（ふげん道路ピット(その1)）

- ふげん道路ピットでは、K断層は数条に分岐しており、ふげん道路ピットの中央付近まで連続していることが確認でき、②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.5mである。



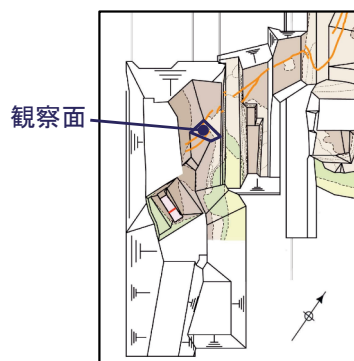
現場確認:2015年7月



撮影:2015年7月

- | | |
|-----------------|------------------|
| ①:f:N29° W75° W | ⑥:b:N75° W39° N |
| ②:f:N25° E76° W | ⑦:b:N30° W26° E |
| ③:f:N14° W62° W | ⑧:b:N57° W9° W |
| ④:f:N35° E75° W | ⑨:b:N77° E2° S |
| ⑤:f:N1° W70° W | ⑩:b:N47° W21° SE |
| f:せん断面 | ⑪:b:N5° W10° W |
| b:層理面 | |

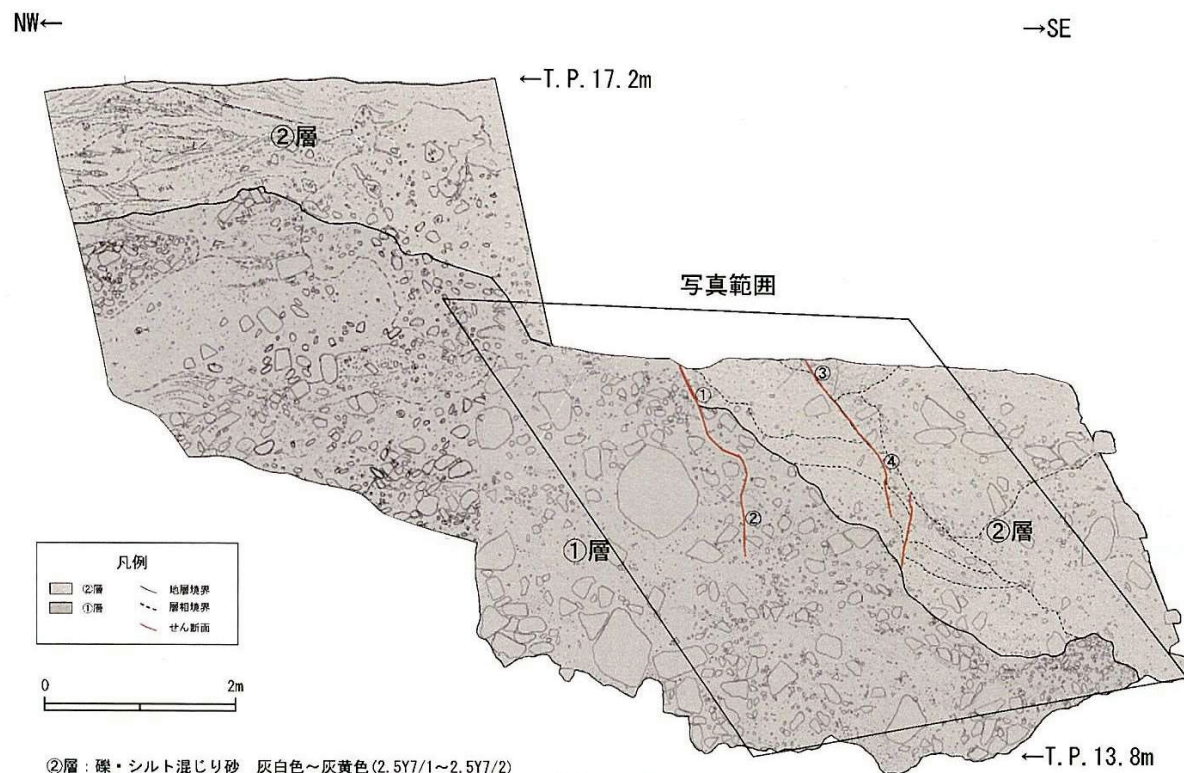
- ③層: 砂礫 にぶい黄褐色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1)
 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50%
 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。
 砂混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、
 径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1)
 シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。



調査位置図

2.2.1.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット（ふげん道路ピット(その2)）

- K断層の南方への連続性を追跡，確認した結果，K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認できる。



凡例	
②層	地層境界
①層	層相境界
	せん断面

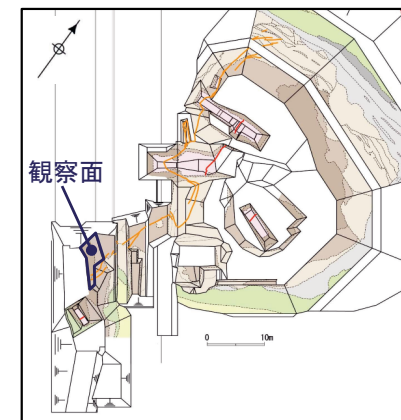
0 2m

②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/1～2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
 シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層：砂礫 にぶい赤褐色 (5YR4/3)
 礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30～60%であり，淘汰は悪い。
 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

- ① f: N31° W62° W
- ② f: N1° W58° W
- ③ f: N5° W67° W
- ④ f: N1° E47° W
- f: せん断面

現場確認：2015年9月



調査位置図



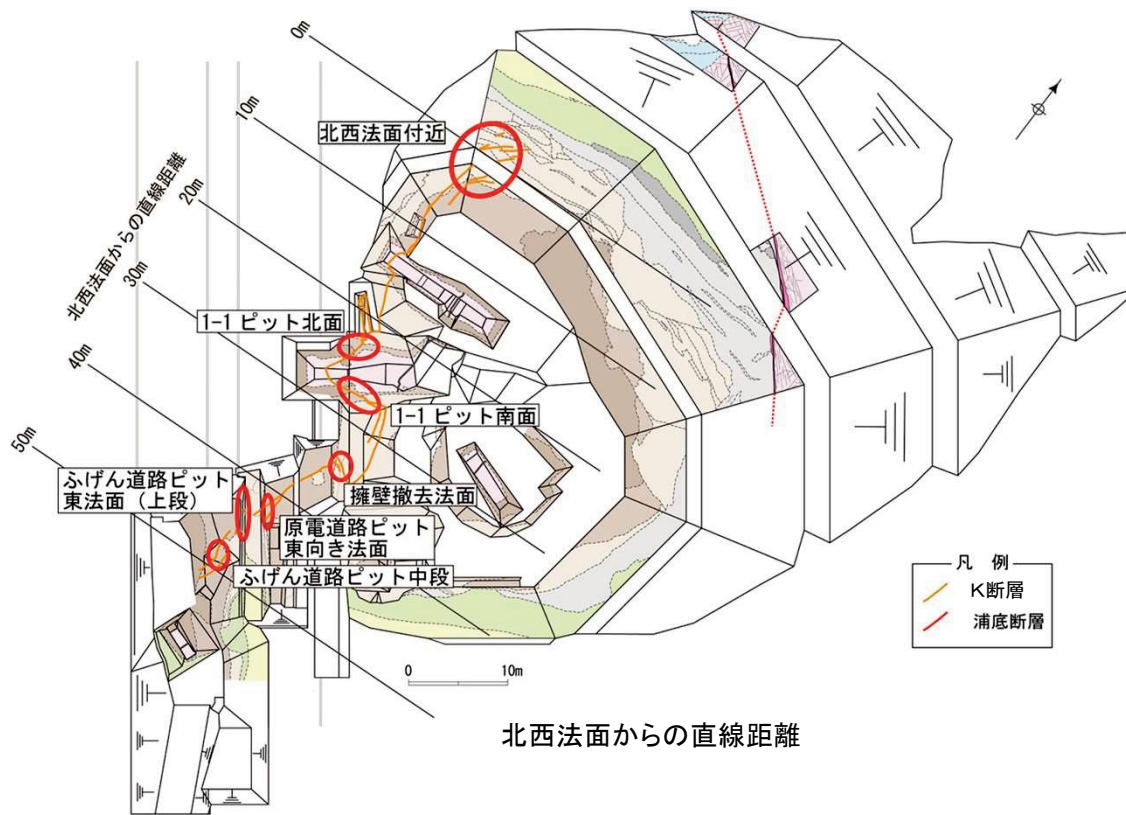
撮影：2015年10月

余白

2.2.9 まとめ

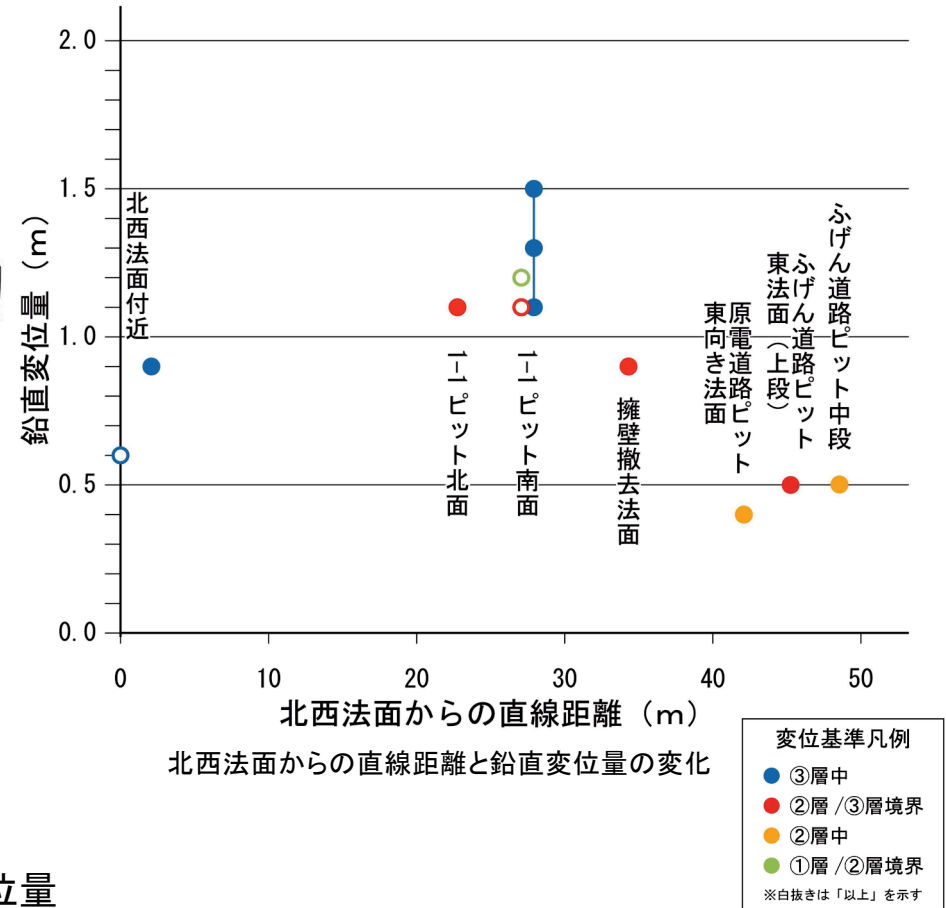
2.2.9 まとめ（K断層の鉛直変位量分布）

- K断層は、D-1トレンチ北西法面からふげん道路ピットに至る区間において連続して認められる断層である。
- ①層から③層中の地層境界や層相境界を変位基準としたK断層の鉛直変位量は、北西法面付近から南方の1-1ピットに向かってやや増加し、更に南方の原電道路ピット及びふげん道路ピットにかけて急激に減少している。
- これらの鉛直変位量には断層変位の累積性は認められない。



北西法面からの直線距離

K断層の鉛直変位量



北西法面からの直線距離と鉛直変位量の変化

変位基準凡例
 ● ③層中
 ● ②層 / ③層境界
 ● ②層中
 ● ①層 / ②層境界
 ※白抜きは「以上」を示す

2.2.9 まとめ（K断層の基盤岩における破砕部性状一覧）

- K断層の基盤岩における確認箇所の性状を下記に示す。
- K断層の走向は主としてN-S～NNE-SSW方向であるが、D-1トレンチ1-1ピットの底盤付近において局部的に走向はNW-SE方向となる。傾斜は中～高角度の西傾斜である。破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。最新活動時の変位センスはいずれの破砕部も逆断層成分が卓越している。

K断層の基盤岩における破砕部性状一覧

確認箇所	走向	傾斜	断層ガウジ・ 断層角礫の有無 ※1	条線 ※2	変位センス
H24-A-11	N5W	89W	有	80R	逆
H24-E'-2	NS	87W	有	60R	逆, 右
H24-E'-1	NS	66W	有	55L	逆, 左
Lカットピット	N13W	76W	有	80R	逆
H24-E-2	N33W	60SW	有	53R	逆, 右
H24-E-1	N21W	71W	有	55R	逆, 右
2-1ピット	N1W	69W	有	78R	逆
H24-B'-1	N12W	89W	有	55L	逆, 左
H24-B'-2	N4E	73W	有	70R	-
H24-H-2	N29W	66W	有	75R	-
H24-B'-3	NS	84W	有	50L	逆, 左
1-1ピット北面	N10W	60W	有	86R	逆 ※3
1-1ピット底盤1	N66W	76S	有	70L	逆
1-1ピット底盤2	N54E	67E	有	25R	逆, 右 ※3
1-1ピット底盤3	N74W	68W	有	63L	逆, 左 ※3
1-1ピット南面1	N23W	69W	有	79R	逆 ※3
1-1ピット南面2	N43W	80W	有	87L	逆 ※3
1-1ピット南面3	N79W	52W	有	82L	逆 ※3
H24-H-6-1	NS	64W	有	61R	逆
H24-H-6	N23W	52W	有	75L	逆
H24-H-9-1	NS	86W	有	60L	逆, 左
H27-G-1	-	-	有	-	-
H27-G-2	-	-	有	-	-
H27-G-3	-	-	有	-	-
H27-G-4	-	-	有	-	-
H27-G-5	-	-	有	-	-
H27-G-6	-	-	有	-	-
H24-H-14	N3W	55W	有	50R	逆, 右
H24-H-13	N10W	72W	有	50R	逆, 右
H27-F-1	N11E	76W	有	70L	-
H27-F-5	N12E	81W	有	60L	-

- ※1:「断層ガウジ・断層角礫の有無」は、断層岩区分の総合評価の結果を記載している
 ※2:斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3:ピットでの地質分布と条線の関係から変位センスを評価した箇所

- :データが得られていないもの

余白

2.3 K断層の活動性評価

余白

2.3.1 活動性評価(北西法面)

2.3.1 活動性評価(北西法面) ③層の層相区分 (D-1トレンチ北西法面(その1))

- D-1トレンチ北西法面では、③層については、K断層の活動時期を詳細に把握するため、地層を細区分することとし、**礫率、礫径、堆積構造及び色調に着目した層相区分**を行い、**連続的に堆積している地層等を一つの地層と扱うこととし、a層～o層に区分した。**
- この細区分については、**観察によって確認した礫率、礫径、堆積構造及び色調に着目した岩相区分により単層毎に区分した。**

